

コースメモ

29. 汲ん場ータ
30. 汲ん場ーレ
31. 橋ー7
32. 汲ん場ーソ
33. 橋ー8
34. 汲ん場ーツ
↓
次号へ
35. 汲ん場ーネ

史跡メモ

將軍地蔵
(那珂川八十八ヶ所66番札所)

古代より田畑潤す清流は
 町の宝よ 裂田の溝
 マサ子

の冷蔵庫として使われていたそうです。ここにも先人の知恵を見る思いがします。「橋ー8」下流の道路側には、「馬の川入れ」と言われた牛馬の洗い場があったそうです。田植えが始まるころには裂田溝も満々と水をたたえて、農業用水路としての本来の姿へと変わります。次号は「汲ん場ーネ」から紹介します。

「橋ー6」を渡ると東側に「汲ん場ータ」があり、西側3 m下流に「汲ん場ーレ」があります。
 裂田溝の水際ぎりぎりに建つ家々は土台の石垣が流れと接しており、古くから幾度も修復されてきたのでしょいか、それぞれに特徴のある石積みになっていて、利用しやすい形で汲ん場が作られています。毎年4月下旬になると、山田区総出で裂田溝の掃除が行われます。きれいになった水辺に立つて耳を澄ませると、水音が「さらさら」と聞こえるようで、しばし心の和みを感じます。
 「橋ー7」は小柳地区一番の大きな橋で、30年位前に架け替えられ

探訪

88

裂田溝15

こやなぎ
小柳地区周辺

那珂川町郷土史研究会

ました。この橋を渡ると広い屋敷があり、もと武家屋敷があったと言われています。奥まった一角に「那珂川八十八ヶ所66番札所」の將軍地蔵が祭られています。近年では、岩戸小学校の生徒の「岩戸ふるさと巡り」学習コースの一つとなっています。亡くなられた当家の広瀬次雄氏は、かつて山田伏見神社「神楽」の伝承者の中心として活躍されました。広瀬氏は、戦前ごろまで山田の青年たちが『山田名物見せたい物は 高津稲荷に伏見の祇園寺もないのに寺山田』と、酒の席で磯節の調子をつけて歌っていたことなどを伝える地元の語り部としても知られた人でした。特に子どもたちが遊びに来ると、進んで貴重な昔話を聞かせられていました。広い庭には百鉢以上の梅の盆栽があり、聞くところによると日本一を目指して集められたようです。以前は花の季節になると、新聞報道などで収集を知った愛好家にぎわっていたそうです。
 形のよいツゲの木を背にして、赤レンガ塀が終わったところに「橋ー8」があります。すぐ東側に「汲ん場ーツ」があり、石段の下流側、石垣に寄り添うようにして幅70 cm、長さ150 cm位の木枠が作られています。その中にスイカやトマト、ビール、ラムネなどが冷やされていて、現在の冷蔵庫が普及するまで天然



故広瀬次雄氏が植えられた見事な盆栽



汲ん場ーツ



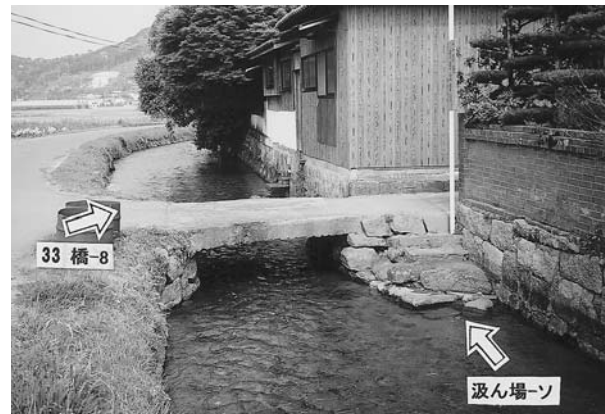
語り部の話に聞き入る子どもたち(矢印が故広瀬次雄氏)



將軍地蔵「那珂川八十八ヶ所66番札所」



橋ー7付近
 緩やかに流れる裂田溝を見るとゆったりとした時の流れを感じ、「少しここで足を止めてみませんか」と誘われているようです。



橋ー8と汲ん場ーソ



橋ー7



汲ん場ーレ